

平成 26 年 8 月丹波市豪雨災害 復旧記念式典を開催

平成 26 年 8 月の豪雨災害以後、県と市が進めてきた復旧工事がほぼ完了し、6 月 3 日ライブピアいちじまで記念式典を開催しました。国、県、市関係者および住民の代表約 500 名が出席し、復興への想いを誓いました。

市長は「多くの方々の尽力で、ハード面の整備が 3 年弱でほぼ完了し、大変感謝している。これからはソフト面の整備を強化し、新たなまちづくりをめざす」とあいさつ。アジサイ栽培による農業の再生事業など、さまざまな復興事業の今後の発展を誓いました。また、最も大きな被害を受けた地域を代表し、前山小学校 5 年生の津田理実さんは「じまんできる前山」と題した復興作文を朗読しました。

さらに「見る・知る・触れる」災害土木展も同時に開催。災害について学べるブースを設置し、災害現場で活躍する車両を展示しました。来場した子どもたちは、見慣れない特殊な車両に興味津々のようすで、機器の説明を聞き、実際に操作も体験しました。



「創造的復興」記念碑銘板を除幕する関係者



土石流発生装置の実演で砂防ダムの効果を見学するようす

田ステ女俳句ラリー 今年も力作ぞろい！

5 月 14 日の母の日に「第 21 回田ステ女俳句ラリー」が開催されました。参加者 131 人はそれぞれに試行錯誤しながら、柏原藩陣屋跡・長屋門・太鼓やぐらなど歴史ある建物が残る柏原地域の古い町並みを巡りながら、句を詠みました。

大賞の「ステ女賞」には、篠山市 酒井美代子さんの作品「夏空を我が空として大櫓」が選ばれました。



互いに意見を交わしながら句を練る参加者

黒豆ブレンドのアサヒ十六茶 今年も関西限定で販売開始

5 月 30 日、数量限定で全 7 種類のアサヒ十六茶ご当地素材ブレンドの販売が開始されました。関西の小売店では、兵庫県産（全量丹波市産）の黒豆ブレンドの十六茶が販売されます。西日本の 4 種セットは、全国でも販売されます。

関西の方が重視する後味に特徴をもたせた、ほのかな甘みと香ばしさが残るお茶です。昨年に続き市の特産品の PR になることが期待されます。



黒豆がブレンドされたアサヒ十六茶を PR する関係者

歴史的建造物 柏原支所を観光拠点へ

5 月 29 日、柏原支所を観光拠点として整備することについて話し合う、丹波市観光拠点整備懇話会が開かれました。

懇話会は観光協会・商工会・自治会代表者など 10 人で構成。座長のまちづくり柏原取締役の岡林利幸さんは「積極的に意見を出し合い、有意義な会にしたいと思います」とあいさつ。それぞれの専門分野や立場から意見を出し合いました。



初会合にあたり懇話会委員にあいさつする谷口市長

フルコンタクト空手で 全国大会出場決定！

市島中学校 1 年の水嶋鼓太郎こたろうさんが 6 月 24 日、全日本少年少女空手道選手権大会グランドチャンピオン決定戦に出場することが決まりました。

昨年 12 月に行われた県大会で優勝し、代表に決定。初めて大規模な全国大会に出場することになりました。水嶋さんは「出場できてうれしい。1 回戦をきちんと勝って、優勝につなげたい」と抱負を語りました。



全国大会での健闘を誓った水嶋鼓太郎さん（写真右）と谷口市長

シティプロモーション始動 愛着と誇りのもてるまちへ

5 月 25 日、柏原住民センターで丹波市創生シティプロモーション推進協議会設立総会を開催しました。「丹の里ワクワク・どきどきキャンペーン 2019（仮称）」に向け、地域資源を売り込み、市民がまちに愛着と誇りをもてるよう取り組みます。

社会づくり・地域・産業団体などと行政が一体となって、オール丹波市の体制でシティプロモーション事業に取り組んでいきます。



協議会の会長に就任し、あいさつする大地但商工会会長（写真中央）

被災者の生活支援のために ダンボールベッド寄贈

6 月 1 日、神崎紙器工業株式会社より災害時の避難所生活などで使用するダンボールベッド 50 床が寄贈されました。ベッドは、避難所生活での足腰の負担軽減や防寒対策、安心して眠れる環境づくりなどに役立ちます。

今後は地域の防災訓練などにおいて、ダンボールベッドの展示や活用方法などを周知し、防災意識の高揚などに役立てます。



1 床ずつ梱包されており、管理がしやすいダンボールベッド